

2024 年度 長期オンライン国際プログラムを振り返って ～その1～ 2024 JA Travel and Tourism Business Program (TTBiz)

自分の中で一番大きな成長は、英語で伝えたいことを言えるようになったこと

今年度も、次世代グローバル人材の育成を目的とした、高校生対象のさまざまなオンライン国際プログラムがあり、本校からも数ヶ月という長期間に渡って参加した生徒がいます。そのうち、2つのプログラムを紹介します。

まず、最初に紹介するのは JA Travel and Tourism Business Program (TTBiz) です。TTBiz は公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本が主催で、韓国、シンガポール、フィリピンをパートナーとして、異なる価値観や文化を持つチームメンバーと英語で能動的にコミュニケーションを行うプログラムで、新たな価値を生み出せる真のグローバル人材育成を目指しています。協賛企業のチームアドバイザーから助言を得ながら、オンラインツールを駆使して多国籍チームで議論、旅行企画立案、プレゼンテーションなど、貴重な体験ができるユニークなプログラムで、全て企業からの寄付で運営する非営利の教育活動です。本校からは 1 年 6 組 田中菜々美さん、小竹未紘さんが参加し、深い学びを得たようです。

TTBiz を通して学んだこと ～振り返りシートより～

1 年 6 組 田中 菜々美

グループメンバーとのミーティングを繰り返していくうちに、始めは自信の持てなかった英語での発言も、次第に発音の不正確さや言葉の拙さを意識なくなり、伝えたいことを言えるようになったことが、自分の中では一番大きな成長だと思います。セミファイナルではベストプレゼンテーションに選ばれなかったのはすごく悔しいです。けれど、私個人でここまで長期間に及ぶプロジェクトに参加したことがなかったのも、旅行プランの舞台である日本をよく知るメンバーとしての発言の重要性や責任感を身に染みて感じました。また、学校の活動と TTBiz の活動とを並行してこなしていく必要があったので、物事に対して優先順位をつけやすくなり、隙間時間を使ってより効率的に作業できるようになったと思います。

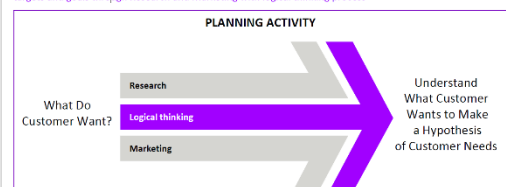
Why is "STARBUCKS COFFEE" so Popular?

Why do you think STARBUCKS COFFEE became so popular?



What is Sales Planning? ~ In Action

As the first step, you need to understand the customer to **make a hypothesis of customers needs** for sales targets and goals through Research and Marketing with logical thinking process



Beyond your imagination!
Simply ask yourself what **YOU** want.
There is no regulation or rule.



Schedule

2024	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	2025	Jan and Mar	April to June
		Phase 1		Phase 2		Phase 3		Phase 4
	● Kick-Off	● Concept Paper Due (10/4)	● Selected 12 teams keep working with support from Accenture & Bloomberg team adviser(s)	● Activity Report	● Presentation Semi Final (1/24)	● Champion team only		● Study Tour to Japan
	● Input Session 9/4 & 9/18			● Grand Final (3/18)				
		● Interim report meeting 1 time/team weekend in Oct - Nov *option slots will be announced						

1 年 6 組 小竹 未紘

私は本行事を経て、初めにグループの他メンバーの英語力に感銘を受けました。私たちの班は韓国とフィリピンのメンバーとの班でしたが、両国のメンバーともに英語をスラスラと話しているのを見て、もしかしたら先に話が進められ、置いていかれるのではないかと不安がありました。そんな時、同じチームメンバーであった田中さんにとても助けられました。積極的に会話に参加しようとするその姿を見て、私も勇気を出して頑張ってみようと思えました。その後は、本番当日まで私なりに拙い英語ではありましたが会話に入り、メンバーの皆と念入りにプレゼンの準備をしました。そのおかげで、自身の英語力を理解した上で、他国の人と多くのコミュニケーションをとれたことに成長を感じました。



2024 年度 長期オンライン国際プログラムを振り返って ～その2～ 2024年度 スタンフォード大学連携講座 Stanford e-Wakayama

強い好奇心を持ち、考え、視点が変わると、困難な壁をも乗り越えられる

次に紹介するのは、スタンフォード大学連携講座 Stanford e-Wakayama です。このプログラムは、和歌山県教育委員会がスタンフォード大学と連携して提供する、和歌山県の高校生向け同時双方向型オンライン遠隔講座です。スタンフォード大学専任講師や現地起業家等による講義、ディスカッションやプレゼンテーションなど、オールイングリッシュによる1回90分の講座を6回程度受講することができます。最後には受講者一人一人が英語によるプレゼンテーションを行いました。本校からは1年6組寺井敦基くんが参加し、ベスト・プレゼンテーション賞を受賞しました。オンラインでの閉講式が3月15日にあり、半年間に渡るプログラムを無事終了しました。

Stanford e-Wakayama を通して学んだこと ～振り返りシートより～

1年6組 寺井 敦基

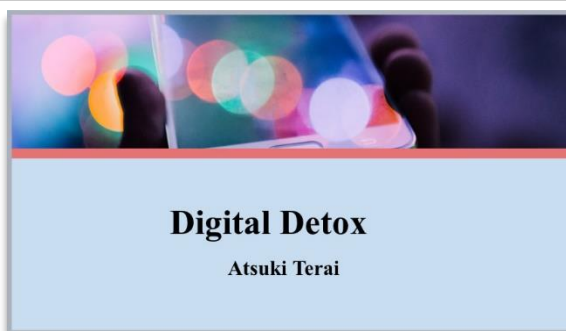
私は、六ヶ月間、スタンフォード e-Wakayama に参加しました。このコースで、政治学、コミュニケーション学、公共政策、社会学、経済学、心理学を学びました。そして、最終プレゼンテーションで、デジタルデトックスについて発表しました。最初の講義の時に想像していたより、スムーズに講座を受けることができました。そこから、その流れに乗って、修了まで楽しく受講できました。最終プレゼンが、暗記の苦手な自分にとっての踏ん張りどころでした。実際に、学校でも和歌山県高校生探究活動発表会で、皆さんにプレゼンをさせていただきました。実は、スタンフォード e-Wakayama の最終プレゼンでは、最初1分で頭の中が真っ白になって、ほとんどアドリブでの発表となりました。だから、細かい文法のミスがあったり、不自然な文章になったりと減茶苦茶になっていたと思います。そこで、探究活動発表会の時にはお尻に火がついて、もう一度暗記し直し、本番では、ユーモアを添えた、個人的にはベストを尽くしたプレゼンテーションができました。

一番印象的なのが、このコースでの恩師である、まきこ先生の言葉です。

「好奇心を持ってください。困難な壁に直面した時、なぜその壁が困難であるのか、その困難とは一体何なのかを、好奇心を強くして、考えると、視点が変わり、容易く乗り越えられる壁になるかもしれない。」

この言葉を胸にこれからも、自分の成長を喜びながら、努力しようと思います。

最後に、せっかくこの自分の記事を読んでくれたのだから、デジタルデトックスのコツを少し紹介しておきます。デジタルデトックスで、理想とする自分に一歩近づくことができます。私も自分の目標を達成できました。だから、皆さんも是非やってみてください。



Digital detox プレゼンの要約

- 1 デジタルデトックス期間の目標を設定すること(自分の場合は英検一次合格する)。
- 2 スマホの電源を消し、リビングに置くこと。
- 3 ジャーナルで自分のすべきことを明確化させ、暇な時間を作らないこと。
- 4 毎日の生活をルーティーン化させ、毎日の努力に慣れること。